

**令和4年度第2回沖縄県立石嶺児童園指定管理者制度運用委員会
会議概要**

日 時：令和4年11月1日（火）18時00分～19時30分

場 所：沖縄県庁5階子ども生活福祉部会議室

出席者：委員5名中3名出席

（委員）児童養護施設愛隣園施設長 上江洲 肇

（委員）沖縄キリスト教短期大学非常勤講師 砂川 純子

（委員）沖縄県ファミリーホーム連絡協議会会長 神谷 眞行

※欠席 沖縄女子短期大学教授 砂川 麻世

富田税理士事務所 富田 将孝

（議事進行）子ども生活福祉部 子ども福祉統括監 友利公子

（事務局）

青少年・子ども家庭課 宮城課長、神谷副参事、新里班長、新里

会次第

○資料等の確認

○事前説明

○応募法人プレゼンテーション（1団体）

○採点結果報告・協議

議 事 概 要

沖縄県立石嶺児童園指定管理者に申請のあった1団体についてプレゼンテーション及び質疑応答による審査を行った。

【質疑応答の概要】

委員

継続事業者の応募があり安堵している。経験を活かしてもらいたい。また、地域との関係を重視してもらいたい。

申請者

地域との連携はもとより、法人の運営する老人ホームや児童クラブも含め、地域間、世代間交流をしっかりと実施したい。

委員

総務課長職を欠員としているが、今後の予定について聞きたい。

申請者

法人全体としてスケールメリットを生かせるよう、法人本部も含めた事務局体制を見直しているところである。総務体制については万全を期するよう、本部との連携をはかりつつ整えていく。

委員

入所児童の権利擁護についてよく盛り込まれている計画であった。児童の入所時の説明について詳しく聞きたい。児童の苦情について第三者委員会も含めた対応を聞きたい。研修については計画掲載の研修以上に受講しているのではないかと。

申請者

入所前に職員が児童へ説明をしたり、園の宣言文について説明したり、困ったときの相談先を事前に伝えている。

苦情についてはお話箱という仕組みを用いて、苦情を収集し、園内の委員会で検討した上で回答している。また本人の希望に応じて周知している。第三者委員会は年2回開催しており、苦情の状況等について議論いただいている。

研修については、計画掲載の研修以外も受講している。積極的に職員を参加させ、資質向上に繋げたい。

委員

里親のレスパイト受入について、ファミリーホーム(以下、FH)へ職員を派遣する形で実施できないか。またペアレントトレーニングのノウハウをFH、里親へ共有してほしい。

申請者

過去園内でのレスパイト受け入れはあったが、コロナが始まって以後はない。派遣型については検討ができれば。

ペアレントトレーニングについては、里親担当が対応しているところ。要望に応じて対応したい。

委員（代理確認）

令和3年度の監査指摘事項が多いが、改善の状況について。

申請者

今年度の監査の中でも改善状況を報告しているところ。令和3年度は法人本部の体制の組み替えの影響があったと思われる。指摘の解消に及び今後係る事態が生じないように努めたい。

【採点の集計結果】

1者だけの応募であり、委員の評価点が全て最低基準点の75点を上回っていることから、社会福祉法人偕生会を石嶺児童園の指定管理者候補として選定。

【次期指定管理者候補への委員からの意見、要望等】

- 法人から提案のあった計画はしっかり実践してもらいたい。いかに職員に共通認識を持たせるか。
- 現指定管理者の継続ということで、子どもへの影響も少ないのではないか。
- 虐待の児童が増え、児童養護施設の状況が様変わりしている。職員を孤立させず、チームを支えていくことを徹底するとともに、職員が疲弊しないような体制とし、メンタル面の支援をしてほしい。
- 法人のトップが変わることで、現場の職員に対して望まない人事異動が生じないようにしてもらいたい。